
SCHOOL !

伊吹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SCHOOL!

【Zコード】

Z5585M

【作者名】

伊吹

【あらすじ】

主人公、松原冬樹と、
灰原好夏の恋愛？？？ストーリー

(前書き)

この小説を読んでほんの少しだけでもいやけていただけたらと思います。（笑）

神流中学校三年二組。

いつもの様に自分のクラスに入った俺は席に着くときに声をかけられた。

「と～お～き～」

声の主は俺の幼馴染みである灰原はーこはら 好夏こなつかだつた。

特徴はと言えば赤みがかかった髪をツインテールにしていて、ドラ

○ンボールとか何か色々なアニメが好きな少々熱血な子だ。

「何？好夏？」

「冬樹はさ～志望校とか決まつた～？」

「いや、まだだけど」

「やつぱさ～あたし的には碧陽〇園とかに入学したいわけよね？」

「搜せば？」

「冗談が通じねー男は嫌われるぞ」

「俺の冗談は通じてねーみたいだな」

「？？？」

「で、本題に戻るけど志望校は決まってないよ」

「じゃあ、テキトーに皆瑞高校のオープンスクール行いづよ」

「みなみづ？」

(^__^)

「「」」が皆瑞か～」

時が変わり約一週間後、俺と好夏は皆瑞高校のオープンスクールに来ていた。

「寝むい・・・」

好夏が校長の話の時にそつ狂っていた。

「「」」の場でその発言はどうかと思つたぞ」

「だつてしょーがなーいじゃーん

「・・・・・」

おおかた学校の説明も終わり、次は学校の案内が始まるよつだ。
「そつしえばどつして好夏はこの学校にオープンスクールに来たんだ
だ？」

「これるときに来とけば間違えがないかなと思つて」

「じゃあ、この学校に来たいと思つた分けじやあないんだ」

「当り前よ！」

「こJの場でその発言はどつかと思つぞ」

「・・・流行つてんの？」

「・・・・・それは聞いたら負けだろ」

「へへ」

そんな雑談をしながら俺と好夏は案内係に従つて歩いて行つた。

(- - -)

「ふうやつと終わつたへへへ

「この場でその発言はどつかと思つぞ」

「それうざい」

オープンスクールも終わり校門のすぐ前でそんな会話をしていた。
「結局さー好夏は何がしたかったわけ？」

「とは?」

「オープンスクールに行って愚痴吐いて帰るなんてどつかと思つた
から」

「うーんあたし的には日常にスリルを求めるたいわけよ。」

「スリルつて・・・(- - -)」

「まあ、毎日に飽きが来なければいいんだけどよ」

「そういうことか」

「冬樹はどんな学校がいいんだ?」

「うーん・・・・」

「・・・そんなに悩むか？」

「いや、別にこれといってないけど」「けど？」

「俺は好夏がいるとこならビビでもいいぜ」

「つ！」

「ん？どうした？顔が赤いぞ？」

「い、いや。べ、ベベベ別に、なな何でもないよ」

「？」

それから妙な沈黙が流れた。

「・・・あゝあ、だからおまえは・・・」

「俺がなんだよ」

「・・・はあ、もういいや」

「何が？」

「そんなことよりパフェでも食おうぜー」

「別にいいけどなんだよいきなり」

「いいから、いいからー」

「ちょ、手を引っ張るなよ」

「いいから、いいからー！」

二人の時間はまだ始まつたばかりだ。

(後書き)

にやけていただけましたか?
まあ、もし読んでいただけたのなら貴重な時間を割いてまで読んで
くださいありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5585m/>

SCHOOL !

2010年10月9日07時12分発行